

貿易部会

1998年のベトナムの貿易動向

1997年に勃発したアジアの経済危機はベトナム経済に直接の打撃を与えることはなかったが、それ以降アジア周辺諸国の景気が低迷した為に98年に入ってから次第に大きな影響を及ぼしはじめた。

1998年1-11月の貿易実績を前年と比較すると輸出は2.9%増、輸入は1.6%減であった。1-11月の実績を基に1998年全体の輸出入を推定すると輸出93億ドル、輸入113億ドルで、輸出入ともほぼ1997年並みにとどまった。貿易収支もほぼ20億ドルの赤字と推定される。

輸出は1994-1996年の3年間連続して毎年前年比で30%以上増加した後、1997年には2割にスローダウンしており、1998年には急ブレーキがかかったことになる。

一方、輸入は1994-1996年の3年間に4割前後の高い伸びとなり。1996年の貿易赤字は輸出額の半分以上を越す40億ドルにまで急増。1997年には輸入規制によって一転前年並みとなっていたもので、2年連続の前年比較横ばいとなる。

品目別に見ると最大の輸出品目は原油で、数量的には前年比24%の増の1100万トンと大きく伸びたが、価格低下からドルベースでは昨年実績並みの12億ドルになった模様。原油に次ぐの

は繊維製品の輸出で12億ドル、前年比の伸び率は6%増と近年では最も低い伸びにとどまった。次いで米輸出で前年比約20%増の10億ドルであった。米作については夏頃までは長引く早魃により不作が予想され一時は輸出停止措置が取られたほどであった。しかし不作懸念により価格が上昇したことに加えて三期作が可能な南部を中心に作付け意欲が高まり、結果的には輸出数量も伸びることとなった。

しかし米を除く農産物においては天候不順から全般的に不振で20%以上の落ち込みになったものも少なくない。石炭輸出もマイナスになった模様。

一方輸入が前年並みとなったのは、繊維などの加工輸出産業用の中間財の需要減、および鉄鋼、ガラス、紙、薬品や奢侈品などの輸入制限が行われた為と考えられる。

ベトナムの輸出産業はなお足腰が弱いと思われ、今後の1-2年間は輸出の大幅な増大は期待しがたい。天候に左右される農産物のウエイトが高く、原油や石炭などエネルギーの価格も暫く低迷を続ける見通しである。なによりベトナムの輸出市場の約80%を占めるアジア地域での需要不信が長期化する見通しであること

に加えて、これらの国々の通貨急落によってベトナムの価格競争力も相対的に低下している。ベトナム当局は98年の2月と8月に2回に亘って通貨切り下げを行っているが、それぞれ5%、7%と小幅なものに留まっており、一昨年7月の切り下げと合わせても17%に過ぎずこの間のインフレを考慮すると実質的な国際競争力は低下している。為替を大幅に低下させたインドネシアなど地域内の競争相手とのバランスを考えると市中では10-20%の切り下げが必要との意見も聞かれている。

現在のベトナムの国内市場と個人所得水準を考えれば自力での景気浮揚は困難であり、周辺諸国の景気が回復するまで当分の間貿易動向にも大きな変化はないと思われる。いずれアジア諸国の景気は回復すると思われるが、その際のベトナム経済の浮揚力を高める為にも、外資導入・輸出増大を促進する施策を整えるなど国内の体制整備を一層すすめることが望まれる。

参考資料

	unit	'98 11 months (Jan-Nov)	Comparison against '97 11 months (%)
EXPORT	US\$ million	8,481	102.9
of which : by foreign invested	US\$ million	1,821	115.8
(major export commodities)			
shelled peanut	1000tons	85	107.6
rubber	1000tons	178	102.9
coffee	1000tons	342	102.4
tea	ton	31,884	112.4
rice	1000tons	3,532	108.8
cashew nuts	US\$ million	109	88.6
pepper	US\$ million	58	92.5
crude oil	1000tons	10,712	123.9
coal	1001tons	2,878	92.4
fruits and vegetables	US\$ million	49	74.8
marine products	US\$ million	756	105.6
textile and garment	US\$ million	1,229	106.4
footwears	US\$ million	869	101.4
handgifts	US\$ million	97	8606
computer and accessories	US\$ million	365	143.1
IMPORT	US\$ million	10,450	98.4
of which : by foreign invested	US\$ million	2,442	88.4
major export commodity			
(major import commodities)			
auto & complete parts	unit	18,324	111.4
--- wholly assembled autos	unit	15,080	122.9
--- complete parts	set	3,244	77.6
machinery, equip. & parts	US\$ million	1,825	112.6
iron, steel, & steel billet	1000tons	1,514	132
--- steel billet	1000tons	722	170.3
of which : steel billet	1000tons	2,856	129.8
fertilizer	1000tons	1,573	120.1
of which : urea	1000tons	6,322	116.7
petroleum	1000tons	214	108.6
chemicals	US\$ million	267	103.9
pharmaceuticals	US\$ million	289	111.6
cotton	US\$ million	62	95.4
materials for textile	1000tons	111	158.6
insecticide & materials	US\$ million	109	107.9
materials for garments	US\$ million	638	58.9
complete parts for motorcycle	1000sets	316	341.3
clinker	1000tons	725	90.1

出所 : General Dept. of Statistics 発行統計

概論

ドイモイ政策が効果を見せ始めた1990年代初期の頃から、日系ゼネコンのベトナムに対するマーケット調査が本格的に始まった。

勿論、ベトナム戦争以前南ベトナム時代には日本のグラント工事等実績はあったが、戦後の南北統一後、長期にわたる中断にて一からの始まりとなった。戦後としては92年8月に着工した、ホテル工事が日系建設会社としては第一号となった。

経済力・マーケットの魅力より、ホーチミン市域が始めに活性化するのは誰の目にも明らかであったが、ベトナムの首都ハノイは行政機能の集中より、建設業界としての進出先は圧倒的にハノイであった。ここホーチミンはハノイの出先としての事務所認可で設立された会社がほとんどであり、現在、部会の会社数は20社を数える。

案件の動向

手付かずの魅力的なベトナムも、アジアの景気と開放策の結果、1993年頃から投資対象国としての注目を浴び始め、市場調査のミッションの数が多く見受けられる様になり、実際に投資許可を取り建設工事を着手する時期に入ったのは、主

に1994年の後半からで、その後急激に進出会社が増え、95年から97年前半迄は第一の建設ブームとなった。この時期は誰の目にもインフラの不整備がはっきりと見え、全てのものが不足していた。従い、ホテル・事務所・アパート・工場と案件の中も広く、各国の投資家も活躍をしていた。

この時期は、多少の法の不整備、手続きの複雑さ、能率の悪さ等その内に何とかかなるだろうとの思いも、多分にあったかと推測されます。我々業界も、この動きに積極的に参加し、難しい土地での進出サポート、コンサル的な役割をしながら工事の直接請負を各社の独創にて活動を行って来た。が、97年代に入り各投資に対する初期の結果が出始めると同時に、ベトナムのシステムの欠陥も多々明確にされ始め、現実に目が向く様になった事と、97年7月タイに始まるアジアの金融不安の嵐と日本の景気後退が重なった事により、一気に新規投資の案件が延期又は見直しになった。

市内で建築中の大型ビルもペースダウンや中断に追い込まれた。我々の業界の施主は日系が大部分にて、日本の景気に大きく左右される所がある。アジアの経済失速が明らかになるに連

れて、市内のホテル・事務所・アパートの供給過剰も目立つ様になり、投資に対する採算性も極端に悪くなって来た。その流れの中で、建設産業の景気は1~2年づれ込みますが、工場案件の多い当地に於いては1998年中に、ほとんど手持ち工事を消化してしまい、99年度を目前に更に厳しい時期を迎えている。

建設業の環境について

ベトナムを見る時はこれが一番重要な要素で、熟知する事により大きなリスクを回避する事が出来る。

1992年当時既に多くの国営建設会社が各地に居たが、外国を相手に仕事をする事には慣れてなく、図面・仕様・材料・工法・契約・勘定・その他一つ一つ説明し、お互い納得行くまで議論した上で進めるというやり方でした。当時、建設資材は施主が支給するのが当たり前で、材工の業者はなく市場でもセメント・ブリック・砂・砂利位しか満足出来るものはなく、その他の材料はほとんどが輸入に頼ったものでした。従い、施主が直接地元の建設業者を使う事はありませんでしたが、この6~7年間に急速な進歩があり、今では設計施工での請負をする地元企業が出て来たり、多

種類の建材の輸入品があり、各種の建材工場も稼動している為今ではかなりの物がベトナム国内で調達出来るようになった。従い、我々の工事の請負方法についてもその都度、市場の能力に合わせてどんどん変化しているのが現状である。

法制度面についても、年毎に種々の条例・規則・細則が施行・改正される、又、規則がないと思われる事でも調べて行くと出て来ます、実際問題が起きその場で規則違反である事が判明した例も有ります。行政の仕組みと関連部署及びそれらの相関関係を知る事も物事をスムーズに進めるに必要な事である。

1998年度としては、ドルの強制売却とVAT導入に対する混乱が建設業界に取って大きな出来事で、引き続きこの頭の痛い問題を99年度に持ち越している。

建設業におけるビジネス環境を他の東南アジアの国と比較すると、諸条件は大変でも活動範囲の巾は広いと考えられる。現法を持たなくてもPJ毎に建設業許可を取得すればほとんどの工事を請け負う事が出来る。この国で一部違う事は、外国投資案件でも地元とのJVの場合については、入札が義務づけられ、その方法が細かく規定されており、資金を持ち込む施主でさえ思うように出来ない面がある事です。

いづれにせよ日々変化するにて、常に調査研究が必

要とされ目の離せない場所である。

1998年度の総括

前段にも触れたが、この一年は建設業界にとりトンネルに入ったまま出口の見えない状況が続いている厳しい年であった。日系企業の受注実績より

「民間ビル物案件」
ホテル・事務所・アパート類については、アパート1件の受注であった。

「民間工場案件」
100%自己資金及びJV案件を含め新築工事は4件の受注。

「その他」
有償・無償案件は南部の方比較的案件が少なく、水力発電所・上水配水管の継続工事あるが新規受注はない。他は、既存工場の増改築や内装工事及びメンテ工事であった。

従い、建設に関して言えば今年度は前年度の遺産で事業を続けていたとも言えます。それに伴って各社工事量に合わせ、規模の縮小を計っており一部の土木工事を除くと、日本人の数も激減しているのが実情です。その為ホーチミンとハノイの所長を兼任する会社も増えて来た。

今年度当初には21社の会員（総合建設会社13社・設備工事会社8社）が居たが、設備工事会社1社が退会し、現在20社である。

商工会活動

今年度は5社の理事会社が

出て夫々委員会活動を行っているが、業種の性格上力仕事得意なところから、特に運動会やパザー等のイベントには部会の一致団結で対応している。又、部会活動も活発で、定例で2ヶ月一回のゴルフ会及び不定期での会議・情報交換会を実行している。本年度は特に投資促進に絡む議題が多く、経済情勢を反映するものであった。

その他の活動としては、年度中盤より日本人学校新校舎建設の件が持ち上がり、建設部会で技術的な面を全面協力する事になった、これは2000年迄の継続活動となる。

まとめ

他のアジア諸国に比べると、発展の余地及び秘めたるエネルギーが充分にあるベトナム、問題は山積すれど次の波は何時か必ず来ると期待し、厳しい時を過ごしている。商工会活動も生活の一部となっている現在、これからも前向きに頑張っていく。